

五所川原市総合計画（案）についての意見募集結果について

市が実施しました五所川原市総合計画（案）の策定にあたっての意見募集に対し、貴重なご意見をいただき、誠に、ありがとうございました。

いただいた意見の概要とそれに対する市の考え方は下記のとおりです。

記

1 意見募集期間

令和元年12月25日（水）から令和2年1月24日（金）まで

2 募集方法

市のホームページ (<http://www.city.goshogawara.lg.jp/>) に掲載したほか、財政部企画課、本庁舎及び各総合支所行政資料スペースに備え付けました。

意見提出は、郵送、電子メール、FAXのいずれかの方法によることとし、提出言語は日本語としました。

意見提出にあたっては、提出者の氏名・住所（法人等の場合は、その名称・事務所所在地等の連絡先）の明記を条件としました。

3 提出された意見

2人の方から延べ7件の意見をいただきました。その反映状況は次のとおりです。

文章修正等	記述済み	実施段階検討	反映困難	その他	合計
1件	2件	1件	0件	3件	7件

「文章修正等」・・・本文の修正、記述の追加等意見を反映させるもの。

「記述済み」・・・既に記述済みのもの。

「実施段階検討」・・・計画の実施段階で検討又は対応すべきもの。

「反映困難」・・・反映が困難なもの。

「その他」・・・質問や感想。施策の体系外への意見。

【パブリックコメントにより寄せられた意見の内容とそれに対する市の考え方について】

- (1) いただいた意見はなるべく原文のまま載せています。
 (2) いただいた1つの意見の中で、複数の内容に触れている場合は、必要に応じて分割し、それに対する考え方を示しています。

No	提出された意見	市の考え方
1	<p>【計画書の構成について】</p> <p>重複が多く読み手に取って苦痛です。章立て節立てを再考する必要があると思われま す。また、図表にはそのデータの出所ならびに平易な注意書きを添付する必要があります。公文書なら必須です。</p> <p>全体の感想として「すだれ」があって具体性に欠けるというよくありがちな「ありばい」の性格の強い市町村計画書の域を脱していません。</p>	<p>【その他】</p> <p>後期基本計画は基本構想に基づいて策定することから、計画の構成上、基本構想に記載されている「施策の大綱」が基本計画中の「基本政策」で再掲され、さらには、本計画中の「人口減少対策プロジェクト」では、人口減少対策に係る施策を基本政策中から選択し再掲しているため、重複している部分が存在します。</p> <p>また、図表については、掲載する上で必要な情報として、その出典を明記しております。</p> <p>計画が具体性に欠けるのではないかというご指摘についてですが、総合計画は市の最上位に位置する計画であり、市のあらゆる分野におけるまちづくりの基本的な方向性を定めるものであります。総合計画に基づき、各分野における個別計画や各種事務事業など具体的な取組を展開していくこととなりますので、ご理解願います。</p>
2	<p>【前期計画の総括(市民意識調査から)】</p> <p>7分野37項目とは20Pの図-11のCS分析「満足度・重要度でみた市施策の散布状況」にプロットされた項目(プロダクトマップ)からご意見申し上げます。</p> <p>CS分析によるプロダクトマップの一般的な経営学的読み方で理想とされるマッピングは、プロットされた項目を直線回帰した場合第3象限から第1象限に右肩上がりに引かれる直線となる(重要度の高いもの程満足度が高い)ことです。残念ながら五所川原市のそれは第2象限から第4象限へ右肩下がりの直線</p>	<p>【その他】</p> <p>市の財政状況については、市広報に連載するなど、市民の皆様にも周知を図ってまいりました。今回の後期基本計画の策定にあたっては、初めて「財政見通し(29.30ページ)」を掲載したところです。</p> <p>今後も厳しい財政運営が予想されますが、将来を見据えた持続可能な行財政基盤の確立を目指すとともに、ご意見のとおり、事務事業の見直しなど徹底した行財政改革に加え、事業の選択と集中により、必要な市民サービスの確保に努めてまいります。</p>

	<p>となっており、理想の直線とは真逆の結果です。市の諸々の施策は思ったような効果を上げていないことを示しています。</p> <p>原発などを抱える市町村と比べ財政的に厳しく市政の運営が厳しいことはわかりますが、それならそれようの対処法がある筈です。</p> <p>～中略～ 「金をかけずに現状で如何に対処していくか」という姿勢はすべての施策に必要な役所としての姿勢です。</p>	
3	<p>【地域活性化について】</p> <p>人口問題は市の存亡にかかわる大問題です。魅力のない街に人は集まりません。五所川原の魅力とは何でしょう。立佞武多？赤いリンゴ？吉幾三？企業誘致が悪いとは言いませんが突然のリセッションで撤退する危険性は常にあります。求められるのは地場に定着した産業です。</p>	<p>【記述済み】</p> <p>市といたしましても、人口減少問題は喫緊の課題と捉えており、後期基本計画では、第3部に人口減少対策プロジェクト〈まち・ひと・しごと創生総合戦略〉（125 ページ～）として、「若者の定住促進」「交流倍増」「元氣・健康づくり」の3つの柱を掲げ、重点的に取り組むこととしております。</p> <p>また、基本政策1の中で、「1-3 地場産業の活性化に向けた支援の充実」（52 ページ～）を掲げ、地場の中小企業等の経営改善や創業・事業承継への支援、産業人材の育成・確保等に取り組むこととしており、「1-4 新たな産業の創出・企業誘致と雇用対策の推進」（60 ページ～）においても、誘致企業の地域への浸透や定着を図るほか、新しい産業間連携や若者の定着促進に取り組むこととしております。</p>
4	<p>【地域活性化について】</p> <p>世の中のトレンドを読むことが大切です。これからは5G・AIの時代です。また、観光で言えばインバウンド。5G・AIは世の中を一変させます。市役所の役人も多くが淘汰されてしまうかもしれません。5G・AIのベンチャー企業の優遇策を策定することで、空き家・空きビルの無償貸与などを手掛かりに、来てくれた起業家たちとのコミュニ</p>	<p>【実施段階検討】</p> <p>5G・AI等の未来技術は、あらゆる産業、分野に影響し、経済発展や地域課題の解決に有効な手段となるものと認識しています。</p> <p>基本計画の中では、ICT等を活用したスマート農業の推進やインバウンド受入環境の整備、国の地域経済分析システム等を活用した産業間連携の創出、あるいは、市の業務においても、RPAを活用した労働生産性の向</p>

	<p>ケーションから新たな活路が生まれることもあるでしょう。求められるのは若い力です。(IT企業を退職したシニア起業家もねらい目)</p>	<p>上を図るとしてはありますが、そのほかにも、健康づくりや教育、都市基盤整備など様々な分野での活用が期待されます。</p> <p>今後、具体的に事業を立案・実施していく段階で、ご意見を参考に、未来技術を活用し、若い世代に魅力ある産業づくり、都市環境づくり等に努めてまいります。</p>
<p>5</p>	<p>【地域活性化について】</p> <p>観光で五所川原の持つ最も大きなネームバリューは何でしょう。ぶっちぎりで「太宰治」です。今、世界的なアニメブームです。アニメ「HUMAN LOST (人間失格)」が世界的に配信されました。斜陽館には海外からファンが訪れています。聖地巡礼と称してアニメの舞台となった現地を訪れる旅行者が増え続けています。太宰治が通った銀座のBar「LUPIN」は有名です。五所川原市にパールパンはありますか。五所川原を太宰のBAR、居酒屋、フィギュア、ポスター、酒、ワイン、土産物で埋め尽くすことです。これらと立佞武多、赤いリンゴなどとコラボさせるとさらにすそ野は広がります。</p> <p>例:Barなら銀座LUPINと同じつくりにして、カウンターチェアに座って太宰と同じポーズの写真を撮れるようにする…その写真をSNSで世界中に拡散。太宰ファンなら絶対に来る。</p>	<p>【文章修正等】</p> <p>ご意見のとおり、太宰治は、その文学が本市の貴重な歴史的文化的文化資源であると同時に、魅力的な観光資源でもあることから、基本政策3の「3-4 芸術・文化活動の推進と郷土芸能の継承」(92ページ～)の中で、「・太宰治生誕の地として、関連するイベントの開催等により、多くの市民が太宰文学に触れ、親しむきっかけを創出するとともに、市内外の交流促進を図ります。」(93ページ)と記載しているものの、ご意見を参考に、基本政策1の観光振興に係る「1-2-5 効果的な情報発信」(51ページ)の主な取組内容の記述についても、「・本市最大の観光資源である立佞武多を核とした各種イベントの開催や、津軽三味線、文豪太宰治、十三湊遺跡、津軽鉄道などを活用した観光PRを行うとともに、マスメディアやSNSの活用、市ホームページの拡充、地域の魅力が伝わる観光パンフレットの作成など、多様な手法の組み合わせによる効果的な情報発信を図ります。」と、文豪太宰治を明記し、修正します。</p> <p>そのほかの具体的な提案につきましては、具体的に事業を立案・実施していく段階での参考とさせていただきます。</p>

<p>6</p>	<p>【有識者会議委員など市の附属機関委員の選任について】</p> <p>元長、役つきの年寄りをそろえるよりも、大学なら教授よりも技術系(理系・医学工学系、マーケティングサイエンス等)の准教授、講師、ベンチャー企業や女性の起業者、学生などを集めた方が100倍有益です。単なる会議のシャンシャン要員とするのではなく、専門性に根差した具体的施策・技術に基づく意見を引き出し施策に反映させることです。</p>	<p>【その他】</p> <p>市の各附属機関には、審議すべき目的があり、委員には、その目的の達成に必要な知識を有している方や定められた関係団体の代表者等をお願いしております。</p>
<p>7</p>	<p>【「5-1 利便性が高く、人口減少時代に対応した都市基盤の整備」について】</p> <p>現在、検討されている「五所川原市地域公共交通再編事業」の内容に矛盾する点があるため意見を述べます。</p> <p>～中略～ 市は「公共交通の利便性の向上」が必要と認識していながら、～中略～</p> <p>現状、毎日3往復半あったバス路線を廃止し、週2日2往復の予約型乗合タクシーと極端な削減案が提示されました。</p> <p>懇談会の中では、今年の春から子供が高校へ通学することになる方からは「家庭の事情により送迎(学校又は最寄りの公共交通機関)ができず、現在のバスを活用しようと思っていた、どうするのか。」との問いに担当者は回答することなく会議が終了しました。</p> <p>～中略)「五所川原地域公共交通再編事業」では、これまでごく一部の方の意見を聞いて高齢者の通院や買い物利用の検討はされてきたようで、通学に対する検討が全くされていないことが判明しました。</p> <p>家庭の事情は様々です。高齢者だけでなく公共交通を利用する利用者は多くいると思います。</p>	<p>【記述済み】</p> <p>人口減少が進む中、地方における公共交通の維持確保は最重要課題であり、利用者が年々減少することに加え、担い手となる事業者の存続が危ぶまれるなど、厳しい状況が続いています。</p> <p>こうしたことから、市では五所川原市地域公共交通網形成計画を策定し、これまでの路線バスのみに限らず、鉄道やコミュニティバス、タクシー等あらゆる交通資源を含め、持続可能な公共交通体系の再構築を目指すとしており、今回の後期基本計画においても、「5-1 利便性が高く、人口減少時代に対応した都市基盤の整備」(118 ページ～)の中で、「5-1-2 新たな公共交通システムの構築」(119 ページ)を掲げ、予約型乗合タクシーを導入するなど新たな交通ネットワークを構築するとしております。</p> <p>ご指摘のありました五所川原市地域公共交通再編事業は、令和2年4月から運行を開始する、五所川原地域内の路線バス再編と予約型乗合タクシー導入を併せた公共交通システムであります。事業化にあたっては、昨年来、地域住民と数回にわたり意見交換を行っており、場合によっては案件を持ち帰って、</p>

<p>提案された「五所川原地域公共交通再編事業」が決定された場合、交通手段(自家用車)のない方々は、P 7 1 2-4-1 介護予防・生きがいつくりの推進「高齢者の「通いの場」を設けます。」、P 8 0 2-5-4 社会参加の促進「障害のある人の社会参加を促進するため、移動支援」、P 9 8 3-3-1 豊かな学び スポーツの機会の充実、P 1 1 0 交通安全対策の推進「運転免許の返納を促す」などと計画しながら、新市内に住んでいる方々は利用等ができないこととなります。P 1 3 6 若者の定住促進プロジェクトについても公共交通機関の少ない地域に若者が定住する事を考えるでしょうか。また、これまで、当市は核家族化が進み若者は旧市内周辺に住むようになり、新市内では高齢者だけの世帯が増加し空き家（人が住んでいない家）が急速に増えています。市民の足である公共交通が極端に削減されることは新市内からの若者の流出が加速し、やがては集落が消滅する現象が起きてくるのではないかと危惧します。</p>	<p>今回の会合で回答するなど意思疎通を図りながら検討を重ねてきたところです。</p> <p>公共交通の再編にあたっては、日々の市民生活に直結する重要な案件であることから、今後とも市民、事業者及び行政が一緒になって、様々な角度から知恵を出し合い検討し、将来にわたって持続性と利便性を確保できる交通システムの構築に向けて取り組んでまいります。</p>
--	--

担当	五所川原市財政部企画課
電子メール	kikaku@city.goshogawara.lg.jp
電話	0173-35-2111 内線 2232
FAX	0173-35-3617